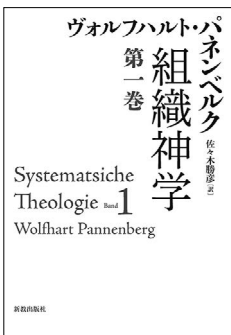




W. パネンベルク 1928年、シュテッティンで生まれた。非宗教的な家庭に育つ。第二次大戦に従軍、イギリスで捕虜生活を送る。ハイデルベルク大学でエトムント・シュリンクに師事し、ドゥンス・スコトゥスの研究で学位を取得。ヴッパータール、マイantz、ミュンヘンの各大学で組織神学を講じた。2014年逝去。



## 組織神学 第一卷

ヴォルフハルト・パネンベルク著／佐々木勝彦訳

パネンベルクの名著、待望の邦訳いよいよ始まる

モルトマンと共にバルト後の神学界を主導したパネンベルク。その名著『組織神学』全三卷（一九八八―一九九三年）は長らく邦訳が待たれていたが、ここについて刊行開始。キリスト教の真理要求を保持しつつ、歴史的省察と体系的省察とを絶えず結合し貫徹しようとする批判的・方法的意識に貫かれた叙述。第一卷では組織神学の本質、キリスト教の真理性の意味、そして神論を徹底的に論ずる。

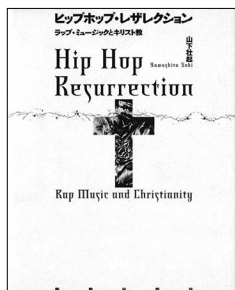
◆ A5判・676頁・本体9000円

9月25日発売

### 【目次より】

- 第1章 組織神学の主題としてのキリスト教の教理の真理
- 第2章 神思想とその真理についての問い
- 第3章 諸宗教の経験における神と神々の現実
- 第4章 神の啓示
- 第5章 三一論の神
- 第6章 神の本質の一体性とその諸属性

● 7 月刊行



# ヒップホップ・レザレクション

ラップ・ミュージックとキリスト教

山下壮起 (阿倍野教会牧師)

◆ A5 変型判・本体 3200 円

ヒップホップはなぜ繰り返し神や十字架を歌うのか。アフリカ系アメリカ人の宗教史を背景にラッパーたちの歌詞を聴き、その深い宗教性を浮かび上がらせた、気鋭の神学者による注目作。

● 6 月刊行

忽ち重版！

# 夜と霧の明け渡る日に

未発表書簡、草稿、講演

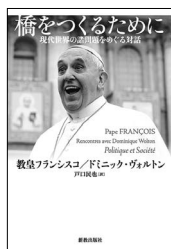
◆ 四六判・本体 2400 円

ヴィクトール・フランクル／赤坂桃子訳

強制収容所からの解放と帰郷という、フランクルの人生において最も重要な時期の伝記的な事実と、当時の中心思想の一端を、未公開書簡と文書を用いて再構成する。名著『夜と霧』誕生の背後にあった個人史と時代史の二つの文脈が、初めて明確に交差する。編者は、膨大なフランクル文献に最も詳しい、ウィーンのリクトール・フランクル研究所所長アレクサンダー・パティアーニ博士。



● 4 月刊行



11 月教皇来日決定！

# 橋をつくるために

現代世界の諸問題をめぐる対話

◆ 四六判・本体 2600 円

教皇フランシスコ、ドミニック・ヴォルトン／戸口民也訳

戦争、貧困、環境破壊、難民、文化的アイデンティティと伝統、異なる者同士のコミュニケーション、そして教会のあり方等々のテーマをめぐり、フランスの著名な社会学者が1年間12回にわたって教皇に行ったロングインタビュー。しかしここには、単なるインタビューに留まらぬ、真に対話の名に値する言葉のやり取りがあり、読む者はたちまち引き込まれるであろう。教皇を知る絶好の書。

在日本韓国YMCA編

## 未完の独立宣言

2・8朝鮮独立宣言から100年

「2・8独立宣言」が東京朝鮮YMCAから発せられ、3・1独立運動の導火線となつてから今年が100年。この宣言の歴史的意義やキリスト教との関係、また日韓の市民たちが今後そこから何を学ぶべきかをめぐり、多くの論者が多面的に考究する。

◆四六判・予価2500円

## ウイリアム・キヤヴァノー著／東方敬信・田上雅徳訳 神学的・政治的想像力

〔仮題〕

国家・市民社会・グローバル化を支配する規律化された想像力を別抉し、もう一つの想像力をキリスト教のストーリーから回復しようとする試み。現代世界を席卷するネオリベラリズムにキリスト教はいかに対抗するのか。その可能性を探る新たな政治神学。

◆四六判・予価2500円

佐竹明著

## 第二コリント書 10—13章

2017年に刊行された8章—9章に続く待望の続刊。世界最高水準の歴史的・批判的注解。〔現代新約注解全書〕

◆A5判・予価9000円

●8月に出た本と雑誌

## バルト神学とオランダ改革派教会 危機と再建の時代の神学者たち

〔大森講座33〕



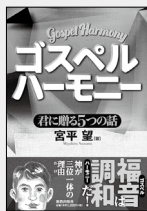
石原弘弘著 バルト神学が20世紀の教会にもたらした影響の一つの稀有な事例として、その歴史的経緯と神学的・教会的意味を考察。オランダ改革派教会の神学小史としても貴重な情報。

◆四六判・本体1100円

## ゴスペルハーモニー

宮平望著

君に贈る5つの話



ドレミの謎、三位一体の数学、第一次大戦の休戦秘話、名詩「足跡」の福音、「グッドバイ」の神学的起源などなど、ハツとさせられる発見に富む。牧師たちの説教のヒントも満載。

◆B6判・本体1200円

## 福音と世界

◆税込635円

9月号 沖縄という問いかけ

寄稿者・森啓輔、土井智義、大畑凜、成定洋子、村上陽子／白石嘉治、藤原佐和子／土井健司、マニユエル・ヤン、町田康、石井光太、内田樹、辻学、長谷川修一、松本あずさ、山口政隆、佐藤優

●七月に刊行された山下壮起さんの『ヒップホップ・レザレクション——ラップ・ミュージックとキリスト教』が各メディアから注目されておりうれしい悲鳴をあげています。販路も小社のほかの書籍とはすこし異なっており、CDショップなどでもお取り扱いたいだいており、ヒップホップ好きとしてはワクワクしてしかたがありません。そうしたなか、あるCDショップの店主さんからいわれたことがとても印象的でした。「こういう本は、いわゆるサブカルチャーの一種としてヒップホップをとらえている層には受け入れられるだろう。でも、だいたいはそこではなくて、ヒップホップがほんとうに好きだというストリーターのひとりに届けることだ」と。私事化した教会の外、ストリートで育まれる信仰を活写した同書には、なるほどストリートに受け入れられるだけのポテンシャルがあるはず。あとは発信のしかたの問題ですが、わたしひとりではノウハウ面でも体面でも限界があり、苦戦する日々です。とはいえ、そのことが核心をつくものであることは疑いありません。ストリートで語られる福音を本にしたときに、それが届く射程を逆に狭めてしまつては、本末転倒なのですから。じぶんがほんとうに

ヒップホップを好きなかどうか、それを自問自答するつもりで、もうすこし苦闘しつづけてみようと思います。(堀)

●両宮栄一先生が八月二六日に亡くなりました。ご病氣と聞いて六月にお見舞いに伺ったときは思いのほかお顔の色が良く、横になったままではありましたが楽しそうに四方山話をなさつていて安心したところでした。思い返せば、小社の前社長が退いた後は私が担当を引き継ぎ、二〇〇七年から一四年までの七年間に、数えてみると七冊もの刊行作業に伴走させていただいたことになりました。『若き植村正久』『戦う植村正久』『牧師植村正久』の植村評伝三部作、『評伝高倉徳太郎』上下巻、『評伝井上良雄』『フリードリヒ・ユストゥス・ペーレルス』。最後の人物は日本では無名ですが、法律家という専門職の立場からドイツ教会闘争に参与し、ボンヘッファーより若くしてナチに処刑された信徒です。歴史の中に斃れていった人物に目をとめ、丹念に資料を集め、その生涯を描くことに精魂を傾けた先生でした。また、キリスト教出版の事業にも関心と理解を持たれ、株主として小社の株主総会にもおいでくださいました。先生への感謝の思いは尽きません。(小林)

# 福音と世界

2019年  
10

A5判・80頁・定価635円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8460円

特集・朝鮮半島と日本のあいだ

言説の布置を見る——歴史修正主義とあいち  
トリエンナーレ事件をめぐる——倉橋耕平  
「慰安婦」を忘却させる植民地主義とポスト  
フェミニズム——「帝国の慰安婦」スレヴァク、  
ポストコロニアル——菊地夏野  
日本と、絶望と、私と、韓国——長尾有起  
わたしはあの中黒なかぐろにいるのだと思う——金村詩恩  
未完の2・8独立宣言——在日本韓国YMC  
Aにきく100年目の問、——取材II編集部

【報告】もう一つの宗教改革発見の旅……菊地純子  
【好評連載】

- ◆ 教父学入門 2 …………… 土井健司
- ◆ バビロンの路上で 7 …………… マニエル・ヤン
- ◆ 神の酒 7 …………… 石井光太
- ◆ 新約釈義 テトス書 7 …………… 辻 学
- ◆ 福音書記者たちの饗宴 10 …………… 松本あずさ
- ◆ 遺跡が語る聖書の世界 10 …………… 長谷川修一
- ◆ 私はロックがわからない 13 …………… 山口政隆
- ◆ 福音の地下水脈 23 …………… 町田 康
- ◆ レヴィナスの時間論 54 …………… 内田 樹
- ◆ ことばの履歴書 67 …………… 佐藤 優